

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会通信

鳥取県青少年育成アドバイザー通信 76号
鳥取県青少年育成アドバイザー協議会
発行日 2018. 6. 7
編集 芳村恵子

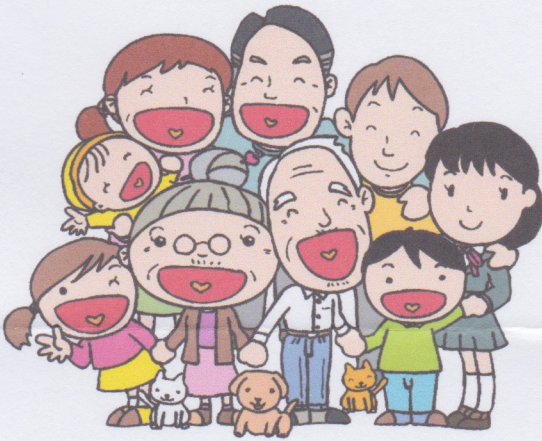
私も笑顔、周りの人も幸せな気持ちに

西上 洋治

青少年育成アドバイザーの活動で目ざすところは、私も笑顔、周りの人も幸せな気持ちになれるようにすることだと考えています。

子ども達を取りまく環境は、大人の忙しさが優先され、少しずつ相手をゆったり見ることが少なくなっているように感じます。子どもにとって笑顔で対応してくれる両親や大人がいることが健全育成の基盤です。

大人自身が笑顔で生活できるように工夫するのです。あなたは、相手に注文することが多くなってきていませんか。注文することをまず自分がやってみるのです。できれば自分がやり、できなければ相手といっしょにやる時間をつくって取り組んでみましょう。



子どもが宿題で漢字練習を苦手を感じていたなら、大人であるあなたが漢字練習をしてみましょう。子どもが何を苦痛に感じているのかわかるのです。その苦痛を解決する方法を考え、子どもといっしょに取り組んでみることも、子どもの健全育成につながるのです。

自分の村の横を流れる佐治川に生えている葦も長い間放置され、秋には火災の心配がありました。有志でグループをつくり、年3回の草刈を続けています。きれいな河原に変わってきて、夏には帰省した子ども達が川の中で元気よく遊んでいます。

河原にゴミを捨てる人もとても少なくなってきました。

世の中の動きがちょっと気がかりな方向を向いているようで心配です。周りの人と関わることをおっくうに感じる人が多くなっているように思うのですが、あなたはどう感じられますか。自分を第一と考えることがあっても、周りに困っている人がいれば手助けする心は失わずにいたいものです。

自分にできることから始めればよいと思うのです。周りの人々を支えることができればと私は活動しています。

誰もが笑顔で、幸せな気持ちで過ごせるようにお互いに手を取り合って、毎日の生活を送っていきましょう。

西上洋治さんに日頃の活動を通して、感じていらっしゃることを投稿して頂きました。ありがとうございました。

読ませて頂きながら、西上さんのあの素敵な笑顔とハツラツとした声を思い浮かべ、つつい私も目を細めてしまいました。

まずは、私達も行動することですね。

西上さんの笑顔のお話で、思い出しました。今年の1月の出来事です。

子ども達の素直な心に支えられ

芳村 恵子

私は、小学校2年生の授業のお手伝いをさせて頂いています。担任の先生とコラボです。

次ページに続く

「赤ちゃんがお母さんのお腹の中で育つ様子や、生まれてくるまでの様子を知る」「自分の家族の愛情や保護によって生れてきたことがわかり、自分や友達の命を大切にしようとする心情を養う」という目標の生活科の授業です。

担任の先生に助産師としての出番を作って頂きます。お腹の中での「生きる力」そして「生まれる力」を伝えます。



小学2年生は、本当に純粋で興味津々で聞いてくれます。

お母さんや家族の方から、生まれた時の様子などお手紙が届けられ、涙を流しながら読んでいる子もいます。

後で感想文が送られてきました。お腹の中では、ただお母さんに守られているだけでなく、自分が生きる力や生まれる力を持っていたことに、喜びと驚きを感じたという内容が多く書いてありました。

その中の一つです。「・・・おなかの中でも、わたしもしあわせだったことがわかりました」と。学校から帰って、お母さんとたくさんお話をしたようです。

この子のお母さんが妊娠中からいかに幸せで、そして今も幸せな家族であることが良く分かります。感想文を読む時は、本番よりもドキドキするものです。この感想をはじめ、私宛に書いてくださった一文字一文字に感謝の念でいっぱいでした。



私は、この子ども達の支えがあつてこそ活動を続けられています。

私たち青少年育成アドバイザーが活動する対象は、青少年だけでなく彼らに日々寄り添っている大人にも関わらなければならないと痛感します。まさに「大人が変われば子どもも変わる」を目指し、大人の一人として青少年育成活動をしていきたいと思ひます。



編集後記

75号を発行してから早半年がたちました。先日より梅雨を迎え、街路樹の木々も一段と緑を濃くしています。本当に、お待たせしました。

会員皆様の活動状況を仲間だけでなく、ホームページを読んでくださる方々にも知って頂きたいと思っています。

どしどし投稿お願いいたします。どうぞ宜しくお願いいたします。

通信担当 芳村